

トリッチ・トラッチ・ポルカ

文責：美谷島

トリッチ・トラッチ・ポルカ (ドイツ語: Tritsch-Tratsch-Polka) は ヨハン・シュトラウス 2世が作曲したポルカ・シュネル (※)。(※ポルカ・シュネル: ポルカ (Polka) は 1830 年頃から伝わるチェコの民族舞曲。「シュネル (Schnell)」はドイツ語で「速い」という意味。よってポルカ・シュネルとは 速いポルカのことである。) 日本では 小学校の運動会などで比較的よく流されるため、耳にしたことがある人も多いと思われる。

《曲名の由来と曲調》

ウィーンには当時 "Tritsch-Tratsch" という著名人のうわさを掲載した雑誌があった。この題名は、ウィーンの劇作家ヨハン・ネストロイの戯曲『トリッチ・トラッチ』を借りたものである。トラッチ (Tratsch) は うわさを意味するドイツ語で、トリッチ・トラッチ (Tritsch-Tratsch) と並べることで音遊び感覚となる。

ヨハン・シュトラウス 2世自身、彼の恋仲がゴシップとなることもあった。シュトラウス 2世は街角の「おしゃべり」や「うわさ」とイメージしてポルカを

作曲し、雑誌を挿入してその題名を冠したとされている。

この曲の雰囲気は、多くのヨハン・シュトラウス2世のポルカと同じく、軽快で威勢が良いのが特徴である。

《曲に関する豆知識①》

- ① シュトラウス2世の最初の妻ヘンリエッタ・トレフツが飼っていたフンドルの名前も「トリッチ・トラッチ」であった!
- ② もともとは合唱付きであったため、ウィーン少年合唱団などではその名残として今もレパートリーとして残っている。

ヨハン・シュトラウス2世

(1825 - 1899年)

オーストリアのウィーンを中心に活躍した作曲家・指揮者。ヨハン・シュトラウス1世の長男である。

生涯のほとんどをウィーン・ワルツ、ポルカなどの作曲に捧げた。ヨーロッパ中で絶大な支持を獲得し、「ワルツ王」、「ウィーンの太陽」とも呼ばれた。

代表曲は「美しく青きドナウ」や「こうもり」など。

参考: Wikipedia トリッチ・トラッチ・ポルカ ヨハン・シュトラウス2世